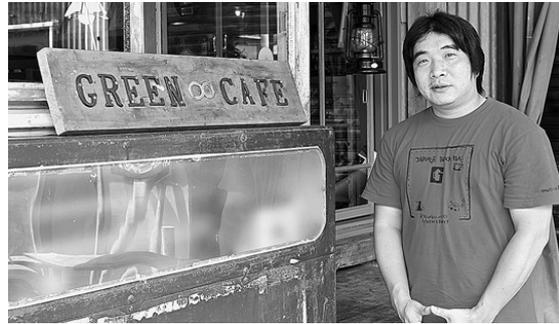


## 茶の自園自製自販にカフェ経営 収入保険加入 コロナ禍でも挑戦へ

北條 広樹さん・静岡市



カフェを案内する北條さん



和紅茶シロップと5種類  
のフルーツソースを  
使った「茶氷ピカソ」

【静岡支局】新型コロナウイルス感染症拡大の影響が茶の需要に影を落とす中、「目先のことだけではなく、10年先、20年先を見据

え、逆境をチャンスと捉えて挑戦したい」と意気込む、静岡市清水区の北條広樹さん(40)。同市西河内地区の有限会社グリーンエイトで、茶約5・5畝を栽培し、生産・加工・販売まで行っている。

西河内地区は、興津川上流の山あいに位置する茶産地。この地区の茶農家8軒が集結して会社を立ち上げたことが、グリーンエイトという社名の由来となっている。

現在は先代から北條さんが引き継いで代表取締役として手腕を振るっており、

6年前に「GREEN∞C A F E」をオープンした。「お茶離れ世代」ともいわれる30代から40代をターゲットに、ドリンクやパフェ、かき氷など季節に応じたメニューでにぎわっている。

店内では「カフェを訪れたお客さまに、リーフティを気軽に買って帰ってほしい」という思いから、パリエーション豊かな和紅茶も販売する。今年から、貸し切りで利用できる茶畑のテラス席の利用を開始。写真を撮って楽しむ若い世代の間でも話題となっている。

コロナ禍でもカフェの客足は絶えないが、「近年の異常気象やコロナ禍で、荒茶の売り上げは厳しい状況となっている」と北條さん。それでも、「収入保険に加入したことは、新しいチャレンジへの後押しとなっている。今後もカフェを通じて、お茶の存在を身近に感じてもらえるよう、茶産地・西河内と消費者を結ぶ懸け橋になりたい」と、今後の新たな展開に意欲を見せる。

(中野)